

実践女子大学 美学美術史学科主催

入場無料

申込不要

上映会 & トークショー



10/12
(土)

12:30~13:20 映画上映

13:20~14:00 トークショー「クリエイターから見た日本の神事の魅力」

会場 実践女子大学渋谷キャンパス 501講義室 (先着200名)

10/13
(日)

13:30~14:20 映画上映

14:20~15:00 トークショー「美術史におけるアニメ・映画」

会場 実践女子大学渋谷キャンパス 501講義室 (先着200名)

トークショー ゲスト

増山修 (「神楽鈴の鳴るとき」原案・脚本・制作総指揮)

アニメーション美術家。1999年スタジオジブリ入社。「千と千尋の神隠し」「崖の上のポニョ」など宮崎駿作品ほか「時をかける少女」「君の名は」にも参加。2000年(株)インスパイアード設立。

竹原直子 (プロデューサー)

(株)インスパイアードプロデューサー、映画「神楽鈴の鳴るとき」プロデューサー。

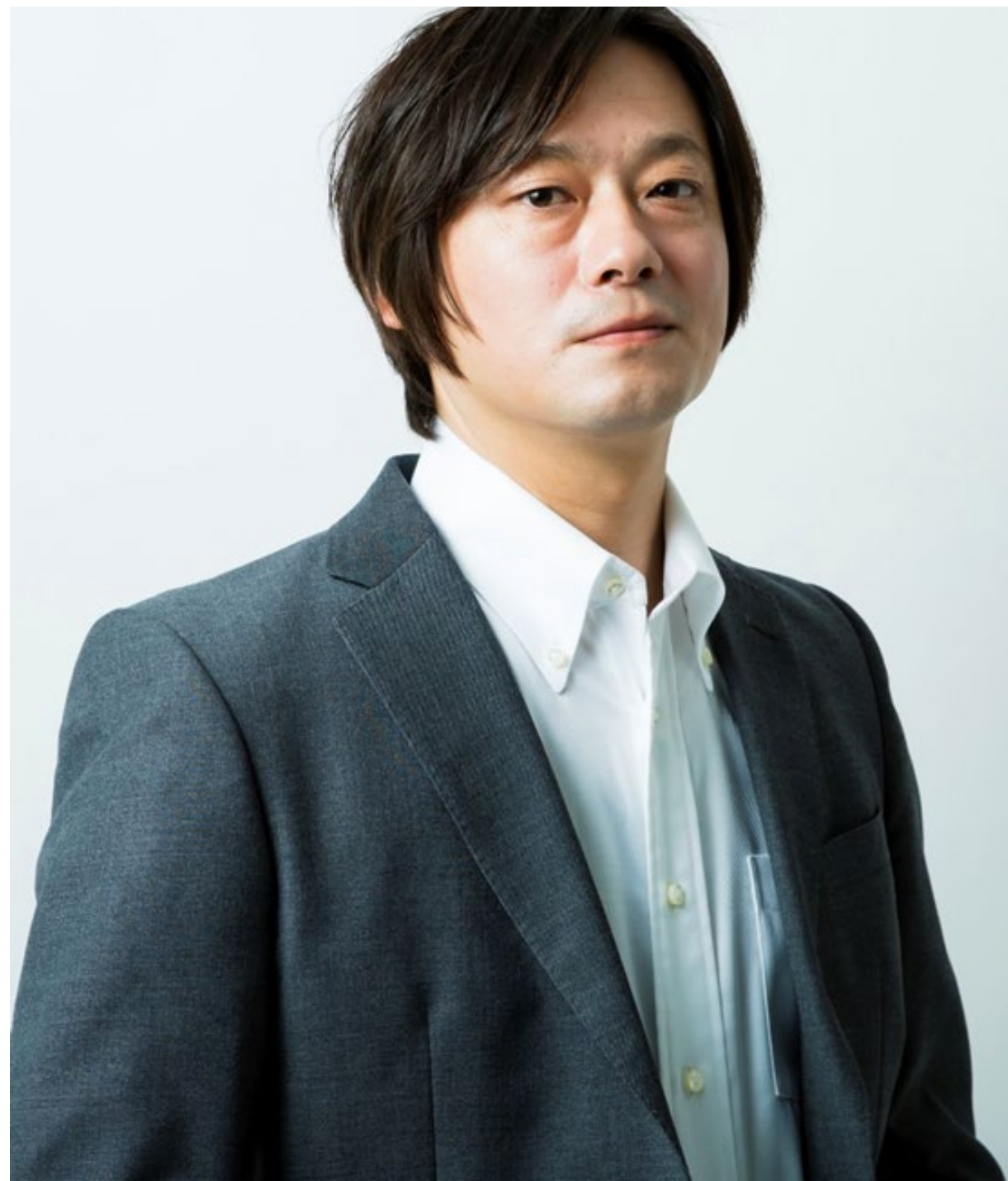




神楽鈴の鳴るとき

富士山の麓に広がる大自然を舞台に、千年以上続く実在の神事「河口の稚児舞」をめぐる感動のストーリー。不妊の問題を抱えた夫婦が出会ったのは、千年の伝統を担う孤独な少女。その「受け継いでいく人生」に触れるとき、新たな気付きが生まれる。富士山の麓で描かれる、いのちの再生のものがたり。

国の重要無形文化財である「河口の稚児舞」をモチーフに、富士山河口湖映画祭準グランプリ脚本を映画化。原案・脚本は、スタジオジブリ出身の美術家として知られる増山修氏。稚児舞の少女を演じるのは日本アカデミー賞新人俳優賞受賞、濱田ここね。祖父役は昨年急逝した名優、大杉蓮が演じる。音楽は日本の心を世界に発信し続け、外務省後援の民間使節団としても活躍する「HEAVENSE」。苦悩する夫婦の繊細な心情を、映画界の重鎮、小沼雄一監督が丁寧に描く。



増山修(ますやま・おさむ)「神楽鈴の鳴るとき」原案・脚本・制作総指揮
アニメーション美術家 1974生、長崎出身。1999年スタジオジブリ入社。2009年(株)インスパイアードを設立。「千と千尋の神隠し」「崖の上のポニョ」などの宮崎駿監督作品のほか、「時をかける少女」「君の名は」にも参加。「メイドインアビス」では美術監督を務める。「学校では教えてくれない風景スケッチの法則」など、美術技法書を出版しているほか、NHK番組においても絵画講師を務める。あいち造形デザイン専門学校スーパーアドバイザー。



竹原直子(たけはら・なおこ)プロデューサー
(株)インスパイアード プロデューサー、看護師、介護支援専門員、デザイナー、フォトグラファー等、フリーランスとして活動は多岐にわたる。(株)インスパイアード代表・増山修とともに夫婦二人三脚で活動を展開する。「らくらく突破 ケアマネジャー見たままそのまま丸暗記」著、看護師国家試験対策講座「なおこ先生のひよこ道場」(2015年～)メディアネットにて毎月連載中。

